

## 12 / 7 校長室より 153

日曜日の朝、素晴らしいニュースが届きました。

JAXA の探査機「はやぶさ2」が、

12月5日午後、地球から約22万キロ離れた位置でカプセルを分離、6日未明、地球の大気圏に突入し、約30分後の日本時間午前2時54分、オーストラリア南部ウーメラ近くの砂漠に計画通り着地、回収されました。打ち上げから約6年間に当たる2195日で52億4千万キロを飛行した今回の探査は完了しました。

「はやぶさ2」が向かったのは、

地球から約3億4000万キロ離れた「リュウグウ」という直径約900メートルの小惑星です。

2014年に打ち上げられ、3年半の宇宙の旅の末、2018年6月に「リュウグウ」に到着。

「リュウグウ」での探査の際採取したカプセルを地球に落下させるというミッションを見事にクリアしたのです。

これから日本に持ち帰って、詳細な分析が進められます。有機物や水を含むとされる炭素質（C型）小惑星からの回収は世界初で、太陽系の成り立ちや生命の起源に迫る手がかりになると期待されています。

「はやぶさ2」の本体は地球には戻らず、新たなミッションとして地球と火星の間を回る小型の小惑星「1998KY26」（約100億キロ先）へと11年かけて向かうそうです。



イメージです